

『朗読って楽しいよ！』

～朗読の楽しさや素晴らしさを伝えたい～

朗読サークル「いきゅんDo」 向井 久貴

1 はじめに

「東日本大震災」があった年の9月に、朗読サークル「徳之島町文化会館」が立ち上がりました。未曾有の大災害に対して、微力な私たちにできることは何かを考えた結果、それは「日常に希望を持って精一杯生きることだ。」と。そして、あの災害からちょうど一年の平成24年3月11日に、第1回朗読サークル発表会を「希望 明日へ」というテーマで開催しました。その後、その朗読サークルを母体として、現在の朗読サークル「いきゅんDo」が平成24年4月に発足しました。

2 趣旨

ITの発達によるデジタル社会においては、活字離れが危惧されています。また、音楽も書籍も電子化され、個々がひとりで楽しむ世界になってしまいました。今だからこそ、とてもアナログな、それも紙でできた媒体を読むことの大切さを広めていきたいです。

朗読によりみんなが笑顔になり、楽しさを分かち合い、伝えあうことの大切さをこのサークルでは学んでいます。朗読の対象は絵本・詩・島の昔話・朗読劇と多岐にわたります。

3 概要

週1回の練習を、町の施設で行っています。活動は、年1回の発表会（今までに8回開催）、学校や施設を訪問しての朗読、町立図書館や町文化会館等町の行事への参加と活動の場を広げています。

4 活動組織

会員は10名 練習は基本的に週1回

5 サークルのあゆみ

日付	内容（発表会のテーマや出し物など）
平成23年9月6日	朗読サークル「徳之島文化会館」立ち上げ
平成24年3月11日	第1回朗読サークル発表会「希望 明日へ」
平成24年4月	朗読サークル「いきゅんDo」発足
平成25年7月28日	第2回「いきゅんDo」発表会 「お母さん そしてつながる生命」

平成 27 年 2 月 22 日	第 3 回「いきゅん Do」発表会 「命をありがとう みんなちがってみんないい」
平成 27 年 12 月 6 日	第 4 回「いきゅん Do」発表会 「生きる 平和ってすてきだね」
平成 28 年 12 月 3 日	第 5 回「いきゅん Do」発表会 「何気ない日々感謝 生きる力をありがとう」
平成 29 年 12 月 3 日	第 6 回「いきゅん Do」発表会「ふるさと つながる想い」
平成 30 年 11 月 17 日	第 7 回「いきゅん Do」発表会 「ありがとう 昨日と明日をつなぐ今」
令和元年 12 月 15 日	第 8 回「いきゅん Do」発表会 「おやゆびさん・スーホの白い馬・ヨイトマケの唄」

6 令和 5 年度の活動内容及び計画

日付	活動内容（参加イベントおよび出し物）
令和 5 年 10 月 28 日	第 22 回大島地区ふれあい読書フェスタ ～「月光の夏」～
令和 5 年 11 月 3 日	徳之島町文化祭 ～「パパイヤとマンジョウマイ」～
令和 5 年 11 月 5 日	奄美群島日本復帰 70 周年記念のつどい ～「1953 年に対する期待」～
令和 5 年 11 月 11 日	西阿木名地区アカギの木コンサート ～「ユイ結いレターコンクール作品集」～
令和 5 年 12 月 1 日	徳之島平和コンサート ～「北緯 29 度線」～
令和 6 年 2 月 17 日	家庭教育学級（中学校）朗読

7 活動内容

年 1 回の全体発表会の内容は、絵本・島の昔話・詩・音楽・群読・朗読劇など多岐にわたります。また、文化祭はもとより、町図書館や町の行事・島内の学校や施設・イベントなどでの朗読にも力を入れています。朗読劇は単なる朗読でなく、効果音や音楽、小道具や衣装も取り入れ、各語り手があたかもお芝居のように演じます。

週 1 回の練習では発声練習から始まり、様々な本を読みます。個々が好きな絵本などを持ち寄って読み比べをしたり、本の感想を述べたりします。新しく会員になった方で、最初声が小さかった人も、練習を重ねるうちに、笑顔で自分を表現できるようになりました。休憩中はみんなが笑顔であふれ、冗談を言い合ったりしています。



大島地区ふれあい読書フェスタ



徳之島町文化祭



奄美群島復帰70周年
記念のつどい

8 成果と今後の課題

朗読は、みんなが心を一つにしないとできません。練習でうまくできないときでも、本番でうまくできることがあります。これは、個々が見えないところで(家庭で)練習をしている賜物だと思います。

今後の課題は、会員を増やすことです。朗読劇を行うには、朗読をする話し手だけでなく、それを支えるスタッフも必要です。広報活動に力を入れて仲間を増やしていきたいです。

9 おわりに

これからも現在の朗読を基本に、色々なことに挑戦していきたいです。例えば、島外での発表会は行ってみたいです。他の地区の朗読の関係者とも交流ができれば、なお良いと思います。

また、朗読の題材も今までのものにプラスして、日本や外国の名作・童話・コミック・落語などあらゆるジャンルに挑戦していくつもりです。島の方言を使った朗読も考えてみたいです。夢は大きく広がります。

天城町文化協会の活動について

～奄美群島日本復帰 70 周年記念 第 41 回町民文化祭～

天城町文化協会事務局 永野 延浩

1 はじめに

天城町文化協会は、町民の文化活動及び文化事業の振興と連帯感の育成を図り、町民の豊かな文化の創造・発展と元気な町づくりに寄与することを目的とし、活動をしている。

今年度は、新型コロナウイルスの感染リスクも軽減され、以前のような活気を取り戻した一年となった。

また、奄美群島日本復帰 70 周年という節目の年でもあり、先人より受け継いだ伝統文化・郷土芸能を後世に継承していかなければならない。

2 活動内容

	行 事 名	場 所
令和 5 年 8 月	徳之島民謡大会	徳之島町文化会館
令和 5 年 11 月	第 41 回町民文化祭	防災センター
令和 5 年 12 月	ひと足早いわくわくお年玉コンサート	防災センター
令和 6 年 3 月	霧島国際音楽祭 in 天城町	防災センター

3 活動状況

天城町文化協会は 27 団体・3 個人で組織されており、生涯学習講座や自主グループ講座、集落公民館などで活動し、町民文化祭や生涯学習閉講式等の場で日頃の練習の成果を発表している。

今年度の主な活動として、8 月の徳之島民謡大会を皮切りに、町民文化祭やひと足早いわくわくお年玉コンサートなどを開催した。

なかでも町民文化祭は、文化協会の一大イベントであり、前日の作品展示から当日の運営までみんなで協力し、開催することができた。





4 成果と今後の課題

町民文化祭終了後に、中高生のみんなが進んで後片付けや掃除をする姿は、指導者の人材育成の成果であった。

課題である会員の高齢化や指導者不足が解消できるよう、後継者育成・若手の発掘に力を入れ、伝統文化の継承・保存や文化芸術活動に努めたい。

また、文化協会が自立し、独自でイベント等を開催できるよう指導・助言していきたい。

5 おわりに

第41回町民文化祭は令和元年度以降4年ぶりに開催され、舞台発表や作品展示など1年間の活動の成果を発表した。開催前日は、22時頃まで練習するなど、成功に向けみんなで協力し、観客を前に久しぶりの緊張感と達成感を味わうことができた。

出演者の演技に対する情熱や笑顔、舞台発表を通して地域を盛り上げる姿は、いつも私たちを元気づけてくれる。

昨年までは、日々感染の不安を抱えながら活動自粛の日々が続いたが、このように再び一緒に集まることができることに喜びを感じ、そして、未来に向けて前進する勇気と希望を抱くことができた。

島唄・踊り保存会「われら阿三」

～伝統文化の保存・継承～

伊仙町中央公民館 松田 博樹

1 伝統文化の概要

昭和初期に集落の若者達が団結と豊作を願い詩にした。三味線・太鼓・歌に合わせて軽快に踊る。この歌は集落独自のもので、他では歌われない。40年程前に保存同好会が結成されました。

2 保存会の内容

- ・ 歌を継承するために島唄・三味線教室を開き後継者の育成
- ・ 小学校行事や高齢者施設の訪問及び地域・集落行事への参加交流
- ・ 町主催の夏祭り等への参加

3 活動内容

	行事名	場所
令和5年8月	徳之島民謡大会	徳之島町文化会館
令和5年9月	小学校運動会	伊仙町立鹿浦小学校
令和5年11月	伊仙町ほーらい祭り	伊仙町面縄港

4 活動状況



和泊町文化協会活動

～令和5年度の文化事業の取組について～

和泊町文化協会 会長 山下 幸秀

1 はじめに

和泊町文化協会は、和泊町民謡同好会、和泊舞踊同好会、国頭民謡保存会、吾館遊び踊り保存会、沖永良部教師美術同好会等がひとつの大きな組織へと発展し、昭和51年12月14日に設立されて、今年で48年になります。

現在は、伝承舞踊7団体、民謡3団体、日本舞踊3団体、琉球舞踊（器楽太鼓）3団体、エイサー1団体、コーラス1団体、劇団2団体、その他3団体の計23の加盟団体により活動しており、本町文化活動の中心となって、各種文化事業を主催しています。

2 文化協会活動紹介

今年度は新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置付けが、インフルエンザ同様5類の分類となり、行動制限など様々な活動が緩和され、これまで開催できなかった各種行事等も徐々に実施できるようになってきました。

令和5年度 和泊町文化協会 活動計画		
月 日	行 事 名	場 所
令和5年7月29日（土）	文化協会発表会（港まつり前夜祭）	役場庁庭
令和5年11月3日（金）	文化と福祉の祭典（舞台発表）	あかね文化ホール
令和5年11月12日（日）	第4回全島ヤッコ踊り大会	あしびの郷・ちな
令和5年12月17日（日）	第40回沖永良部音楽コンクール	あかね文化ホール
令和6年2月11日（日）	子ども芸能発表会	あかね文化ホール
令和6年2月15日（木） ～令和6年2月18日（日）	文化と福祉の作品展	やすらぎ館

(1) 文化協会発表会（港まつり前夜祭）

港まつり前夜祭が開催されたことにより、文化協会発表会も小学生から一般まで 12 団体約 130 名が出演し、前夜祭を賑やかに盛り上げていただきました。



(2) 文化と福祉の祭典（舞台発表）

文化協会加盟団体を中心に、伝承舞踊・民謡・日本舞踊・琉球舞踊・コーラス等が多彩な演目を披露し、多くの町民が文化芸能の魅力・楽しさ・素晴らしさを感じる舞台となりました。

(14 団体 15 演目 約 102 名出演)



(3) 第 40 回沖永良部音楽コンクール

知名町と合同で開催している本大会は、31 名の児童生徒が緊張感漂う雰囲気の中で、日頃の練習の成果を発揮しました。(ピアノ部門 21 名・アンサンブル部門 1 組・ソロ部門 3 名)



(4) 和泊町文化協会団体活動助成

自主的に行う公演及び活動発表や、島外における公演等の助成を行うため、「和泊町文化協会団体活動助成金」の交付を行っております。

「和泊町文化協会団体活動助成金」交付要項

助成金額	協会が必要と認める経費の3分の2又は10万円のうち少ない金額(ただし、上限額は予算の範囲内とする。)
助成対象	① 島内において自主的に行う公演・作品展示・講習会・講演会など一般を対象とした事業 ② 島外において行う公演・活動発表(自主的・招待を問わない。)
助成対象団体	協会に加盟して1年以上経過し、且つ、会費の未納がない団体

※ 令和5年度は、自主公演を実施及び実施予定の2団体に助成をする予定としています。

3 おわりに

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が、インフルエンザ同様5類の分類となり、行動制限など様々な活動が緩和され、コロナ禍以前と同様に文化協会主催事業を開催することができました。

観客を動員して開催するイベントであり、出演者にとっても観客にとっても多くの感動を味わうことができた活動になったと思います。今後も文化活動を継続していくことで、町民が心豊かな生活を送れるようにしていきたいと思います。

しかし、会員の高齢化や事業のマンネリ化、運営の中心である文化協会青年部の減少、教育委員会事務局への運営依存など、今後検討や見直しが必要な課題が多くあります。

今後は、イベントに参加する加盟団体が、「自分達が文化協会の一員である」という自覚を持ってイベント運営に協力するとともに、文化協会青年部の増員のために、若手の育成に励んでいきたいと思います。また、団体の技芸を磨くために、積極的な自主公演の開催や新たな事業の企画運営、継続して行われているイベントの改革・刷新、島外文化協会等との交流も図りたいと思います。

先人達から受け継いだ貴重な伝承(島唄・踊り・方言)芸能を永遠に途絶えることがないように次世代へ継承し、島の芸能に誇りを持って本町文化活動の推進に努力し、楽しく協力し合える団結ある文化協会を目指したいと考えています。

知名町文化協会の活動状況

知名町文化協会事務局

1 はじめに

知名町文化協会は、文化を愛する方々の思いと努力により昭和50年6月に設立され、今年で44年になる。設立当初は、22団体でスタートし、町内で活動する文化団体が相互に密接な連携を取り、活動の発表、相互啓発等を通じ自主的な文化活動を促進してきた。併せて町文化行政と協力し、郷土文化の振興及び町民の文化創造の気運を醸成、促進することを目的とし、現在では、舞台部門25団体（休会2団体）、展示部門5団体の30団体、約500名の会員で活動を行っている。

令和2年度から始まる新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ禍」）の影響により、文化協会事業の中止が相次いだ。令和5年度はコロナ禍以前の形式で、事業を行うことができた。コロナ禍の3年間を振り返りながら報告する。

2 令和5年度文化協会主催事業の紹介

知名町文化協会では、子供から大人まで幅広く参加してもらえようようなイベントを開催しています。

月 日	事 業 名	場 所	備 考
5月27日	第21回五月の祭典	あしびの郷・ちな	青年部主催
8月26日	第27回ふるさと夏祭り	役場横駐車場	前夜祭ステージ
11月4日 ～11月5日	町生涯学習フェスティバル	あしびの郷・ちな 町民体育館	前夜祭ステージ 展示部門
11月25日	知名町子ども芸能祭	あしびの郷・ちな	
12月17日	沖永良部音楽コンクール	あかね文化ホール	和泊町開催
2月17日	第26回島唄・島ムニ大会	あしびの郷・ちな	

(1) 五月の祭典

青年部が中心となって企画・運営を行っている。コロナ禍により、令和2年度、3年度は中止となり、令和4年度は制限付き（入場及び座席等）で開催。令和5年度は、制限なしのコロナ禍以前の形式で、開催することができた。出演は10団体、ゲストは、島内外で活躍している地元の島唄グループ「遊弦会せりよさ」。「せりよさ」とは、古琉球時代の沖永良部島の古名である。



(奄美新聞社提供)



(南海日日新聞社提供)



(2) ふるさと夏祭り前夜祭ステージ

令和2年度、3年度は夏祭りが中止となった。4年度は開催されたものの、前夜祭は中止となった。実行委員会の配慮により、本祭典の舞台上で文化協会から2団体が出演した。

令和5年度は、コロナ禍以前の形式で開催することができ、7団体が出演した。台風の影響により、夏祭り日程は変更となった。



(3) 知名町生涯学習フェスティバル

令和2年度、3年度は規模を縮小して開催されたが、文化協会主催の前夜祭は中止となった。令和4年度は感染対策を講じながら、文化協会前夜祭として開催することができた。

令和5年度は制限なしで開催され、文化協会主催の前夜祭は、14団体の出演があった。展示会場では、文化協会加盟団体のほか、公民館講座、各種団体及び個人の展示が行われた。



(4) 知名町子ども芸能祭

令和2年度，3年度は中止。令和4年度は，コロナ禍が収まりつつあった11月下旬の日程であったことから，ほぼ制限なしで開催された。

令和5年度は，8団体，約70人の子どもたちによって，開催された。



(5) 島唄・島ムニ大会

現在消滅危機にある，大切な文化遺産や島の方言，島唄を見直し，後世に伝え残すことを目的として開催され，26 回目を迎えた。大切な方言等の継承のために，各地域の方言や歌，踊りなどの伝統文化の発表を行っている。

令和2年度は中止となったが，3年度，4年度はコロナ対策を講じながら，開催。5年度は通常どおりの開催となり，学校，育成会，放課後児童クラブ，公民館講座，個人など，12 団体，約 110 名の出演があった。



3 成果と課題

加盟団体の会員の高齢化が進む中で，青年部を中心に文化協会主催のイベントを運営したり，また青年部独自の主催イベントなど開催するなど連携が取れている一方で，毎年恒例のイベント等がマンネリ化したり，参加者が減少しているイベント等もあつたりするため，若い意見と先輩方の経験を活かし，文化協会全体で知恵を出し合いながら協力し，文化協会のさらなる活性化と伝統文化の継承等への支援を継続していきたい。

コロナ禍の中で，五月の祭典，子ども芸能祭，島唄島ムニ大会などの YouTube 配信を行ってきた。今後も，継続したい。

与論民謡の継承と新しい芸能の構築に向けて

～太鼓と三線の音で島を盛り上げながら～

与論舞弦鼓代表 小高 明日香

1 はじめに

エイサーチーム舞弦鼓は、与論島出身の有馬 淳（ありま すなお）らが、平成16年に神奈川県川崎市で立ち上げました。その後、一緒に立ち上げた仲間が、平成19年に「関西舞弦鼓」を設立。続いて有馬のUターンに伴い、平成22年、与論島にて「与論舞弦鼓」を設立しました。現在は、関東(川崎中心)、関西(東大阪)、与論島の三拠点で活動中です。

令和5年11月で設立13年目を迎えた私たち「与論舞弦鼓」ですが、はじめの10年は土台作りと試行錯誤の日々でした。沖縄の文化である「エイサー」をベースに、与論の唄や奄美群島の唄で新しく振り付けを創り、地謡（唄三線）や大太鼓も当時は珍しく女性が担当するなど、常識に囚われず様々なチャレンジをして創り上げて来ました。また、自分たちよりずっと前から活動している「ゆんぬエイサー」との差別化、島での認知、女性と子供が多いメンバー構成の中でどれだけ迫力が出せるかなど、工夫を重ねてきました。

そしてこれからの10年は、飛躍の時期ととらえ、島の芸能を担っていく存在としてさらなる成長を目指し、笛や和太鼓を取り入れた演舞や演出などにも力を入れて活動しています。

2 活動の趣旨

- ・ 与論民謡でエイサーを踊ることにより、島民が島の唄を聴く機会を作る。
- ・ 与論民謡の新しい魅力を打ち出し興味を持ってもらうことで、島民に自分たちの文化の素晴らしさに気づいてもらう。
- ・ 三線と太鼓の音で島を明るく元気にする。
- ・ 踊り（舞）・三線（弦）・太鼓（鼓）を組み合わせて、与論が誇れる新しい芸能を創っていく。

3 概要

「舞弦鼓」について

- ・ 平成16年11月に川崎市にて「エイサーチーム舞弦鼓」発足
- ・ 平成19年11月東大阪市石切に「関西舞弦鼓」を設立
- ・ 平成22年8月鹿児島県与論町に「与論舞弦鼓」を設立

「与論舞弦鼓」について

- ・ 未就学児～60代まで約40名が在籍
- ・ 練習は、毎週土曜日 19:30～21:00, 日曜日 14:00～15:30

4 活動状況

与論舞弦鼓の基本的な出演機会は、毎年5月初頭（GW 期間）に与論町の銀座通り商店街で行われる「銀座通り感謝祭」、毎年8月中旬「ヨロンサンゴ祭」、今年から開催が2月になった「与論町文化祭」です。近年は、この3つのイベントに新しいチャレンジができるよう標準を合わせて練習しています。その他の島内イベント・個人のお祝い等でも依頼を受けた際には演舞させて頂いています。

【過去1年間の主な出演（個人依頼は割愛させて頂きます）】

令和4年（2022年）11月	大島地区広域文化祭 in 喜界島
令和5年（2023年）1月	与論町二十歳の集い
令和5年（2023年）2月	与論島音楽祭
令和5年（2023年）4月	ヨロンつながるアースデイ
令和5年（2023年）4月	与論町町制60周年記念式典
令和5年（2023年）5月	銀座通り感謝祭
令和5年（2023年）7月	朝戸元気まつり
令和5年（2023年）8月	ヨロンサンゴ祭
令和5年（2023年）8月	国頭村まつり
令和5年（2023年）8月	与論未来フェス
令和5年（2023年）11月	奄美群島地区植樹祭
令和5年（2023年）11月	特定地域づくり事業協同組合全国フォーラム in ヨロン

5 成果と今後の課題

活動の趣旨である「三線と太鼓の音で島を明るく元気に」という点は、成果として挙げられるのではないかと実感しています。演舞をして皆さんの喜んでくれる顔、楽しそうな姿を見られたときに、活動していてよかったと心から感じています。

舞弦鼓の課題としては、若い世代や男性メンバーが少ないことです。若い世代や男性メンバーが活躍することで、演舞により迫力が出て盛り上がるので、一緒に活動したいと思えるようなチームづくりをしていきたいと思えます。

また与論島の課題としては、民謡の衰退が挙げられます。現在与論では、民謡を唄える人も聴ける場所も少なくなっているため、舞弦鼓の活動を通して民謡を聴ける機会を作っていきたいです。

6 おわりに

活動の趣旨の項で「与論舞弦鼓」として目指していることを書かせて頂きましたが、活動する中で私たちが何より大事にしているのは、「自分たちがまず楽しむこと」です。これまでの活動では辛い時期、楽しむことを忘れかけてしまった時期もありました。だからこそ今は、「自分たちが楽しんでなければ人を楽しませることはできない」と胸に刻んで活動しています。高みを目指しながらも無理はせず、家庭・仕事・別の趣味も大事に。出来ないときはやらなくていい。そんな風にちゃんと自分を大事にしながら、舞弦鼓としてさらに進化出来るように活動していきます。今後とも応援よろしくお願い致します。